

項目	具体的努力目標	自己評価		改善策など	学校関係者評価	
		達成状況など	4段階評価		4段階評価	ご意見
① 豊かな心の育成	○人権教育の徹底(いじめのない学校)	○人権学習を通して、自分の行動や価値観をみつめ、自分の生き方について考える機会を設けることができた。 ○学校生活の中での言動で、人権学習からの学びが反映されている場面が見られるようになった。 ○研究授業や校内研修を定期的に行い、教職員の資質向上を図ることができた。	B	○人権課題を自分の問題としてとらえ、かつ自分の生活をより良い方へ活かしていける取組をさらに進めていく。 ○引き続き研究授業や校内研修を行い、教職員の人権感覚を磨いていく。 ○生活アンケート等を利用し、生徒の実態把握に努め、生徒が過ごしやすい学校づくりに今後も取り組んでいく。	B	○アンケートでは汲み取れない生徒の些細な変化にも気づくことができるように、日頃からコミュニケーションを大切にしてほしい。 ○世界にも目を向け、様々な人権課題に取り組む必要がある。 ○新型コロナウイルス感染症拡大による感染者や医療従事者への誹謗中傷や偏見・差別などについての学習に継続して取り組んでほしい。
	○道徳教育の推進	○教科化3年目になり、「特別の教科 道徳」に対する教師の意識も生徒の意識も高まってきた。 ○時間の都合上、学年によっては22の内容項目すべてを取り上げるのは難しかった。 ○年間2回の研究授業を行い、授業研究会を通して、道徳科の授業力の向上につなげることができた。	A	○年間35時間の道徳科の時間を確保する。 ○授業力の向上をめざした研修(研究授業・授業研究会)を行う。	A	○「学校にはお子様の悩みを相談しやすい雰囲気がある」の質問に対し、約2割の保護者が「あまりそう思わない・そう思わない」と答えている現状を踏まえ、相談しやすい環境づくりが必要である。
	○生徒指導の充実	○教師間の共通に基づく生徒指導においては、各学年共に学年主任を中心に決定したことは指導できた。 ○生徒に自己決定の場を多く与えることにおいては、生徒個々の能力や発達段階に違いがあるので、個々の能力に応じて教師側が「待つ教育」を実践し、自律的かつ実践力のある生徒を育てた。 ○生徒指導体制においては、共通理解のもとに小さなことにも丁寧に複数の教員で生徒指導にあたれた。 ○悩みを相談しやすいと答えた生徒は79%と、昨年度より14%も下がった。	A	○教師の指導のもとに生徒会の挨拶運動や専門委員会の服装検査、自転車点検を継続し、生徒自らが主体的に取り組む活動を継続させていく。 ○生徒観察や生活アンケート、生活記録から生徒の変化を捉えて、積極的な生徒指導の徹底を実践していく。 ○生徒の個々の発達段階にあわせて、人権教育との両輪で「待つ教育」を必要に応じて実践し、生徒の自己肯定感を育てていく。 ○学年単位だけでなく、教師間の会議や連携で積極的な生徒指導を実践していく。 ○日々の学校生活や教育活動等の中で、人間関係を深め相談しやすい雰囲気を作っていく。	A	
② 特別な学力の育成	○主体的・対話的で深い学びの実現	○基礎・基本的な学習内容には、意欲的に取り組める生徒が多く、学びに対する意欲が見られた。 ○保護者アンケートの家庭学習の定着については、肯定的な評価が58%と低く、家庭学習の工夫が必要である。 ○自分の課題を見つけ取り組むことができる生徒が少ない。	B	○学力の定着には欠かせない家庭学習の充実を推進する。 ○個に応じた指導とアドバイスを行うようにする。 ○自分の課題を見つけ、その解決に向けて調べたり、学び合ったりしながら主体的に取り組めるように実践していく。	B	○コロナ禍では、家庭教育の重要性がより高まっている。保護者や地域への啓発を図り、学校・家庭・地域が一体となって生徒を育てる必要がある。 ○オンラインでの職場体験学習など、ICTを効果的に活用し生徒の体験活動の機会を減らさないように工夫して実施してほしい。
	○キャリア教育の推進	○各学年とも、キャリア教育の計画に基づいての進路指導を総合や学活の授業を利用してきており、生徒も将来についての考えを家庭で話すことが多くなっていく。「ご家庭では、お子様と進路や将来のことについて話をしている。」という項目では、昨年の91%から94%に上昇している。	B	○新型コロナウイルスの関係で職場体験を行うことができなかったため、それに代わる、生徒が進路や将来について考える機会を授業の中で設定する必要がある。 ○キャリアパスポートの活用に向けて共通理解を図る。	B	○1年時から将来を見据えた進路指導に積極的に取り組む必要がある。
	○総合的な学習の時間の充実	○新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実施が難しい時期もあったが、各学年で延期や内容を変更するなどして、体験活動を実施することができた。 ○地域のことや将来について調べ学習を行うことで、生徒たちの自己認識を深める機会を設けることができた。	B	○新型コロナウイルス感染状況に配慮しながら、体験学習の実施計画を立てる。 ○自分自身につながることだと生徒に意識させて活動に取り組ませる。	B	
	○特別支援教育の推進	○学級のファイルや帰りの会等で、保護者や生徒とのコミュニケーションを取ることができた。交流学級に入りにくい生徒にも、支援学級には登校しようとする意欲をもたせることができた。 ○個別の指導計画で、生徒に関わる多くの教員がその生徒の特性を考えて指導の目標を立て授業に臨むことができた。教員の情報共有としても利用することができた。	A	○生徒一人一人が、授業の中で達成感を味わうことができる支援を行う。 ○交流学級での生活を通して、多くの人と共に活動する楽しさを味わうことができる支援を充実する。	A	
③ 健やかな体の育成	○健康でたくましい身体の育成	○体育の授業では、特に三学期に持久走の実施により、体力を向上させる取り組みができた。継続して行うことで、体力の向上を実感できた生徒も多い。同時に体力向上の意義や必要性を指導することにもつながった。 ○身体測定等で、自分の発育・発達に気付く機会となった。	B	○食事や睡眠など、自分の健康管理に気をつけていると答えている生徒が5%減っており、32%の保護者もそう感じている。給食の時間でも野菜を残す生徒が増えていると感じている。また、就寝時刻が遅い生徒もいる。家庭と連絡をとり、基本的な生活習慣の定着を図っていく。 ○自らの体調や体力だけでなく、仲間の体調や体力にも気付き、望ましい関わり方ができるよう指導していく。	B	○近隣に大きな工場等ができ、ますます交通量が増えることが予想される。企業等へ通勤・交通マナー向上に向けての働きかけが必要である。 ○身体の育成・食育の充実は、学校教育だけでは限界がある。さらに家庭と連携し、対応していく必要がある。
	○安全教育の充実	○「交通マナーの指導の徹底」という項目では、7割の生徒が今年度の交通指導を肯定的に見ていた。保護者においては、昨年に引き続き95%を超える保護者が交通指導体制を肯定的に捉えていた。 ○避難訓練を2回実施した。10月には、火災を想定した避難訓練を実施し、グラウンドに避難した。1月には、地震を想定した避難訓練を実施し、第2避難所である自転車置場に避難した。	B	○生徒の3割が交通指導体制に不安を感じていることから朝の交通指導だけでなく、放課後の交通指導を週1回から2回の実施に変更する。 ○災害を想定した避難訓練を実施していく上で、関係機関や保護者と連携した訓練も実施していく。	B	
	○食育の充実	○放送委員会と連携を図り、食に関する啓発活動を継続することができた。 ○栄養教諭による出前授業を実施し、食に関する知識を深めることができた。	C	○関連教科でもより一層食育に関する学びを深め、家庭での生活を振り返る必要がある。 ○引き続き栄養教諭と連携をとり出前授業を実施していく。	B	
④ 特別な活動の推進	○生徒会活動・学級活動の充実	○生徒総会では、事前にアンケートをとったことで、積極的に意見交換ができ、全員が前向きに参加して良い雰囲気の中、内容を深めることができた。 ○学級では、一人一役で1年間責任をもって取り組むことができた。	A	○生徒は、教師のサポートのもと主体的に活動に取り組むことができた。生徒会担当や学級担任任せにならないように、全教職員の目で全生徒を見守っていける体制を更に構築していくように務める。	A	○来年度も引き続き生徒が主体的に取り組めるように指導を続けてほしい。
	○環境・福祉ボランティア教育の推進	○ふるさとクリーンデーに参加する生徒も多く地域貢献活動に取り組んでいる。 ○緑化推進委員会を中心に学校の花壇をきれいに保ち、環境美化に努めた。	A	○生徒会を中心に各学級でキャップやプルタブ集めの意義を伝えていく。 ○学校や地域の環境美化に努める。	A	
⑤ 研修の充実	○校内研修の工夫改善と計画的な実施	○各学年で大研が実施できた。授業後の研究会も生産的な意見が数多く出て、充実していた。 ○コンプライアンス等の研修も実施できた。	B	○生徒たちの生活の改善に反映させられるような大研、研修内容にしていく必要がある。 ○メンター研修で話し合われた内容も学校運営や学年、学級経営に生かせるような体制も必要だ。	A	○メンター制、OJTの充実を図り、引き続き効果的な研修を続けてほしい。
	○OJTの充実	○学年主任を中心に、特に生徒指導に関して、問題行動への対応、予防等についての話合いができ、実際の指導に生かすことができた。	B	○若手教員は特に、悩んだり、行き詰まっている生徒が安心して本音が話せるような信頼関係の作り方を、ベテランの先生の意見を聞きつつも、自ら見つけようとする意欲を持つ。	B	
⑥ 開かれた学校の推進	○家庭・地域社会関係機関との連携	○コロナ禍のため公開中止となる行事が多かったが、参観授業の際には多くの保護者の方に生徒の様子を見てもらうことができた。 ○地域ボランティアの協力で、「朝の読み聞かせ」を実施することができた。 ○各関係機関との連携を図ることができた。	A	○コロナ禍ではあるが、感染状況を考慮しながら学校行事を計画し、できるだけ公開できるようにする。 ○各関係機関や校区内小学校との連携をさらに密に行う。 ○ホームページを活用し、効果的に情報公開を行う。	A	○コロナ禍の中でも、参観授業に多くの保護者が参加できたということの評価したい。来年度もできるだけ行事等を実施し学校公開を進めてほしい。
	○業務改善の推進と職場環境の改善	○統合型業務支援システムとタブレットの導入が同時であったため、煩雑な作業内容に時間がかかった。そのため効率的に活用することができず、業務改善には至らなかった。 ○部活動指導員、学びサポーターなど、外部人材を活用することができた。	C	○出退勤管理システムを活用し、タイムマネジメントを推進する。 ○学校行事の精選、会議のスリム化を行い、業務の軽減を図る。 ○地域の外部人材を活用し、部活動等の負担軽減を図る。	B	○新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、さらに地域力(人財・物)を活用していく必要がある。